

3. 川・池沼の行動計画

重点施策

(1) メダカやカワバタモロコなどの希少動物の保全

昔は、流れのゆるやかな川や水路でよく見かけたメダカや、ため池等の止水域に生息しているカワバタモロコが、現在では、環境省 RDB に掲載されています。こうした生きものは自然環境ではほとんど見られなくなっていますが、学校における環境学習の教材や、鑑賞用として飼育されることが多くなっています。

生き物を通じて、自然の大切さを感じる機会を増やすために、市民を対象にメダカを配布し、メダカの飼い方や生き物の大切さを伝える講座等の啓発活動を行うとともに、大学や企業等と連携し、メダカやカワバタモロコなどの希少生物の保護・増殖を行います。

① メダカの保全に向けた普及啓発活動

- ・ 市民を対象にメダカの飼い方や生き物の大切さを伝える「メダカの飼い方教室」を開催し、参加者へメダカを配布します。参加者には、飼育の過程で増殖したメダカを市へ返してもらい、翌年の「メダカの飼い方教室」において、参加者へ配布します。

② メダカやカワバタモロコなどの希少生物の保護・増殖

- ・ 大学や企業等と連携し、メダカやカワバタモロコなどの希少生物の保護・増殖を行います。
- ・ 市内で生息可能なため池等にメダカやカワバタモロコなどの希少生物を放流します。



カワバタモロコ



メダカ

その他の施策

(2) 生物多様性に配慮した河川管理

河川流域には多くの野鳥や昆虫が生息しており、それらは、河川流域に生息している植物に大きく依存しているため、除草の時期や範囲等に配慮することが重要です。そこで、自然保護団体や、県・市関係部署との調整を図り、生物多様性に配慮した河川管理を行います。

① 河川整備マップの作成

- ・ 除草時期や範囲において、野鳥や昆虫に影響のあるエリアの選定を行います。
- ・ 選定結果に基づき、鳥や昆虫の専門家に意見を伺い、除草の時期やエリアに関する情報を収集し、エリアごとにその情報をプロットした整備マップを作成します。

② 生物多様性に配慮した河川管理

- ・ 河川整備マップに基づき、除草等の河川管理を行います。

(3) 湧水の保全

西宮には、日本名水百選に選定された西宮の名水である宮水や、六甲山の山水、廣田神社のおすぎの水等の湧水が存在します。なかでも、宮水は六甲山系からの伏流水で、海に近いことから適度に塩分も含まれており、西宮独自の地形からなるお酒に適した水として、昔から西宮の酒造産業を支えています。しかし、湧水は開発等による影響を受けやすく、お酒の品質に影響を及ぼすため、西宮の酒造産業では、宮水を守るための活動として、水量確保、水質保全のため周辺環境を守る活動を行っています。

① 水量確保、水質保全のための周辺環境を守る活動の実施

- ・ 現在、酒造会社で構成された「灘五郷酒造組合」を設置しており、引き続き、水量確保や水質保全のための周辺環境を守る活動を行います。

(4) 生物多様性に配慮したため池の保全

市内には、治水対策となる拠点のため池が点在しており、生物のネットワークを形成する上で非常に重要な役割を果たしています。しかし、現在、ため池の調査や保全の取り組みが実施されている所はほとんどなく、外来種の移入や水質の悪化等を防ぐことが必要です。そこで、ため池の現状を把握するための調査や、環境の悪化を防ぐための方策を検討していきます。

① ため池調査の実施

- ・ 市民ボランティアなどを活用し、ため池に生息している動植物の調査を実施します。

② ため池の保全に向けた手法の検討

- ・ モデルとなるため池を選定し、生き物の生息状況、水質の状況等を考慮した上で、それらを改善するための手法を検討します。

(5) 武庫川整備計画との連携

兵庫県では、平成 23 年度に「武庫川整備計画」を策定しており、武庫川流域における治水、利水、環境、維持管理等の目標や整備内容を具体的に定めています。市としては、「武庫川整備計画」に基づき、県との情報共有を図りながら、武庫川における生物多様性保全に努めていきます。